

矢作川流域圏懇談会

川部会の令和4年度の活動成果と今年の活動目標



矢作川流域圏懇談会のゆるキャラ
「はぎぼう」

日時：令和5年6月20日（火）

市民部会

新たな公開講座開催の検討
農業を切り口に、「みどりの食料
システム戦略」や「冬水田んぼ」の
勉強会を開催し、流域の
課題について検討。

山部会

根羽村、恵那市、豊田市、
岡崎市、幸田町にてワーキングと
フィールドワークを開催し、流域
の山が抱える課題について、
解決策を検討を実施

川部会

海部会合同で鵜の首掘削箇所・
ヨシ原再生箇所等を見学し、生き
物の棲みやすい環境について
検討。流域の関係団体、
生態系ネットワーク等
との関係性を
模索

海部会

公開講座「豊かな海の栄養源」
を全国に発信するとともに、川部会
合同で、干潟造成箇所等を見学
海が抱える課題について、
解決策の検討を実施



1.令和4年度の活動目標と活動成果 川部会の活動成果

《令和4年度の当初目標》

土砂をキーワードに他部会を巻き込んだ情報共有と意見交換を行うとともに、昨今頻発する自然災害や環境の悪化に注目し、矢作川の望ましい姿を検討する。

<テーマ>

上下流問題
(生き物の棲みやすい
川づくり)

地先の問題

<解決手法>

①本川モデル

- ・流域における土砂の役割を再認識するとともに、山・川・海の立場に共通する望ましい条件を抽出し、関係する国や自治体に、その条件を共有する。
- ・鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）、干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）について、海部会と合同で状況を把握し、双方の利益に関する意見交換を行う。また、より好ましい事業に向けて、関係者への働きかけを行う。

②支川モデル

- ・支川で活動する団体を訪問し、流域における支川の役割をとりまとめる（川部会の記録として残す）。

③地域連携モデル

- ・ごみ問題に関する情報共有を行う。
- ・外部団体（生体系ネットワーク協議会等）と連携する。

1.令和4年度の活動目標と活動成果 川部会の活動成果

川部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第59回WG（24名）	6月3日（金） 13:30-16:20	豊田市崇化館交流館 1階 工芸室
海・川合同部会FW・WG（24名）	11月22日（火） 10:00-16:15	鵜の首掘削箇所・ヨシ原再生箇所・ 干潟造成箇所・西尾市文化会館
第61回WG（18名）	12月12日（月） 10:00-12:00	岡崎市民会館 集会室 中会議室B
第14回川部会 まとめの会（22名）	1月31日（火） 14:00～17:00	豊田市崇化館交流館 2階 大会議室

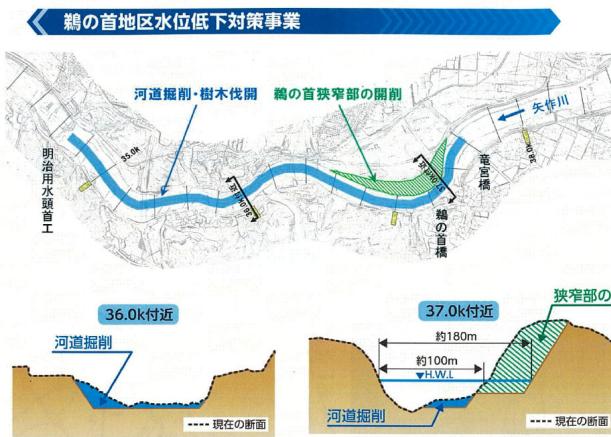
※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

1.令和4年度の活動目標と活動成果 川部会の活動成果

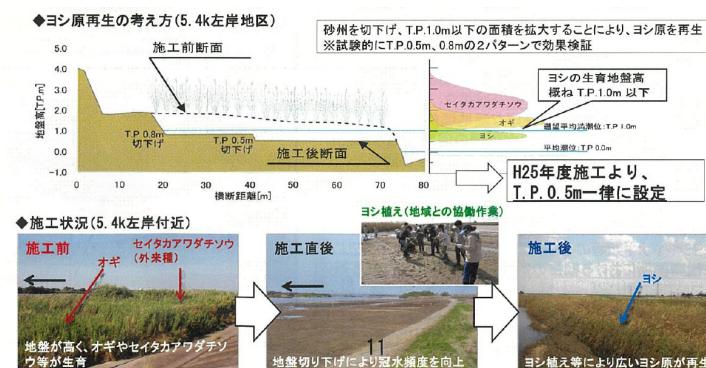
①本川モデル | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

〈流域における土砂の役割を再認識するとともに、山・川・海の立場に共通する望ましい条件を抽出し、関係する国や自治体に、その条件を共有する。〉

- 海・川合同部会（11月22日）にて土砂をキーワードに矢作川本川の事業の取組みについて、国・県・市・市民の人と現地視察および意見交換を行い、土砂の役割を再認識するとともに矢作川流域の望ましい条件について共有した。
- 鶴の首地区水位低下対策事業では、令和2年度より明治頭首工より上流の河道掘削工事が実施されており、鶴の首の狭窄部区間の開削により川幅を広げるとともに、発生した土砂を海まで運搬し、干渴・浅場造成に利用するという報告がなされた。
- 山や川にある土砂を海で活用していくことで、海の生き物にとっても生息しやすい環境となる。また、今後、総合土砂管理などで山・川・海で協力体制ができればよいとの意見交換を行った。



鶴の首地区水位低下対策事業について
(資料一部抜粋)



ヨシ原再生の考え方 (資料一部抜粋)



意見交換の様子

1.令和4年度の活動目標と活動成果 川部会の活動成果

①本川モデル | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

<鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）、干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）について、海部会と合同で状況を把握し、双方の利益に関する意見交換を行う。また、より好ましい事業に向けて、関係者への働きかけを行う。>

- 鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）、干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）、ヨシ原再生事業について、海・川合同部会（11月22日）を実施し、各事業について現地視察および会議室での意見交換を行った。
- 鵜の首地区の狭窄部を広げることで洪水時の氾濫抑制にも繋がり、また、掘削で発生した土砂を海に運搬し干潟を造成することで、干潟で生息する生き物の保全活動にも繋がる。
- 干潟造成箇所やヨシ原再生箇所において、今後、他部会や外部団体と一緒に生き物観察等を実施できるとの意見交換がなされた。



鵜の首の掘削の解説の様子



ヨシ原再生の解説の様子



干潟造成の工事の様子



集合写真（海・川合同部会） 4

1.令和4年度の活動目標と活動成果 川部会の活動成果

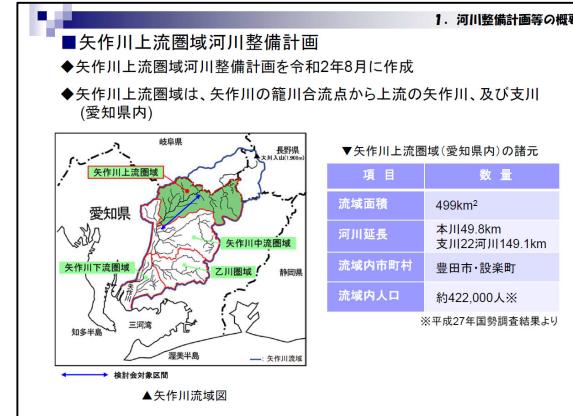
②支川モデル | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

＜支川で活動する団体を訪問し、流域における支川の役割をとりまとめる
(川部会の記録として残す)。>

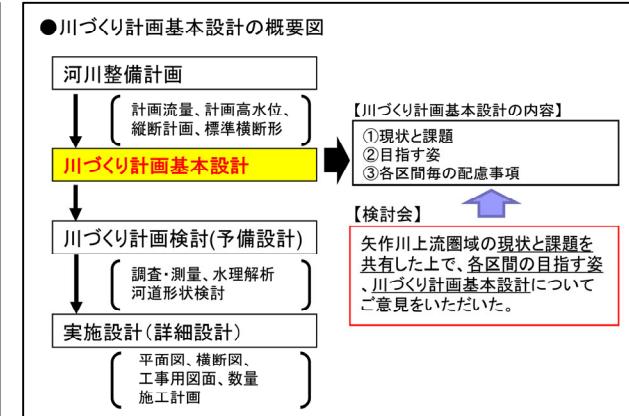
- 矢作川水系矢作古川の支川である一級河川広田川（菱池遊水地）での大規模特定河川事業について愛知県河川課より情報共有された。菱池地区の歴史を踏まえ、今後の人間との関わりを考えながら、菱池遊水地の利活用について意見交換を行った。
- 矢作川上流圏域河川整備計画・川づくり計画基本設計について河川課より情報提供された。本設計では、予備設計に反映させるにあたり河川環境のあるべき姿を検討している。



大規模特定河川事業について（資料一部抜粋）



矢作川上流圏域河川整備計画について（資料一部抜粋）



1.令和4年度の活動目標と活動成果 川部会の活動成果

③地域連携モデル | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

<ごみ問題に関する情報共有を行う。>

- 第61回川部会WG（12月12日）にて、野田氏より、矢作川流域圏と近隣流域における川・海ごみの分布と特徴について情報提供した。
- ごみの密度は、矢作川下流では100mあたり概ね10～20個の範囲にあると報告された。
- マイクロプラスチックの密度は、矢作川は豊川と比較して密度が低い河川になっていると報告された。



野田氏



ごみの問題についての発表の様子（第61回川部会WG）



写真 17 護岸・オギ原間
散在するペットボトル（図 5 参照）



写真 18 ヨシ原・ヤナギの根元のゴミ
ペットボトル・プラスチック類（図 5 参照）



写真 19 河川敷公園・駐車場の隅に捨てられたゴミ
マスク、レジ袋、空き缶、プラスチック類、
食品包装シート（図 5 参照）

ごみ問題についての資料一部抜粋（野田氏提供）

1.令和4年度の活動目標と活動成果 川部会の活動成果

③地域連携モデル | 令和4年度の活動方針に対する進捗状況

＜外部団体（生態系ネットワーク協議会等）と連携する。＞

- 矢作川流域圏懇談会の活動を見直し、広げていくための取組として、西三河南部生態系ネットワーク協議会（以降、協議会とする）との連携をはかった。
- 協議会は、干潟観察会や生き物ふれあい観察会などのイベントを実施しており、海部会と関連していることから、海・川合同部会（11月22日）にて、令和5年度から共同で連携をはかっていくと川部会から海部会へ提案した。
- 第61回川部会WG（12月12日）に、協議会会長の谷地先生（人間環境大学）をお招きし、協議会の活動紹介をしていただき、今後の連携についてブレインストーミングを行った。
- 矢作川流域圏懇談会がプラットホームとして機能し、ヨシ原再生など流域内のイベントやバスツアーなどの情報を協議会に共有し連携をはかっていきたいとの意見が挙がった。



一色干潟での観察会（協議会活動紹介_資料一部抜粋）



観察会の様子



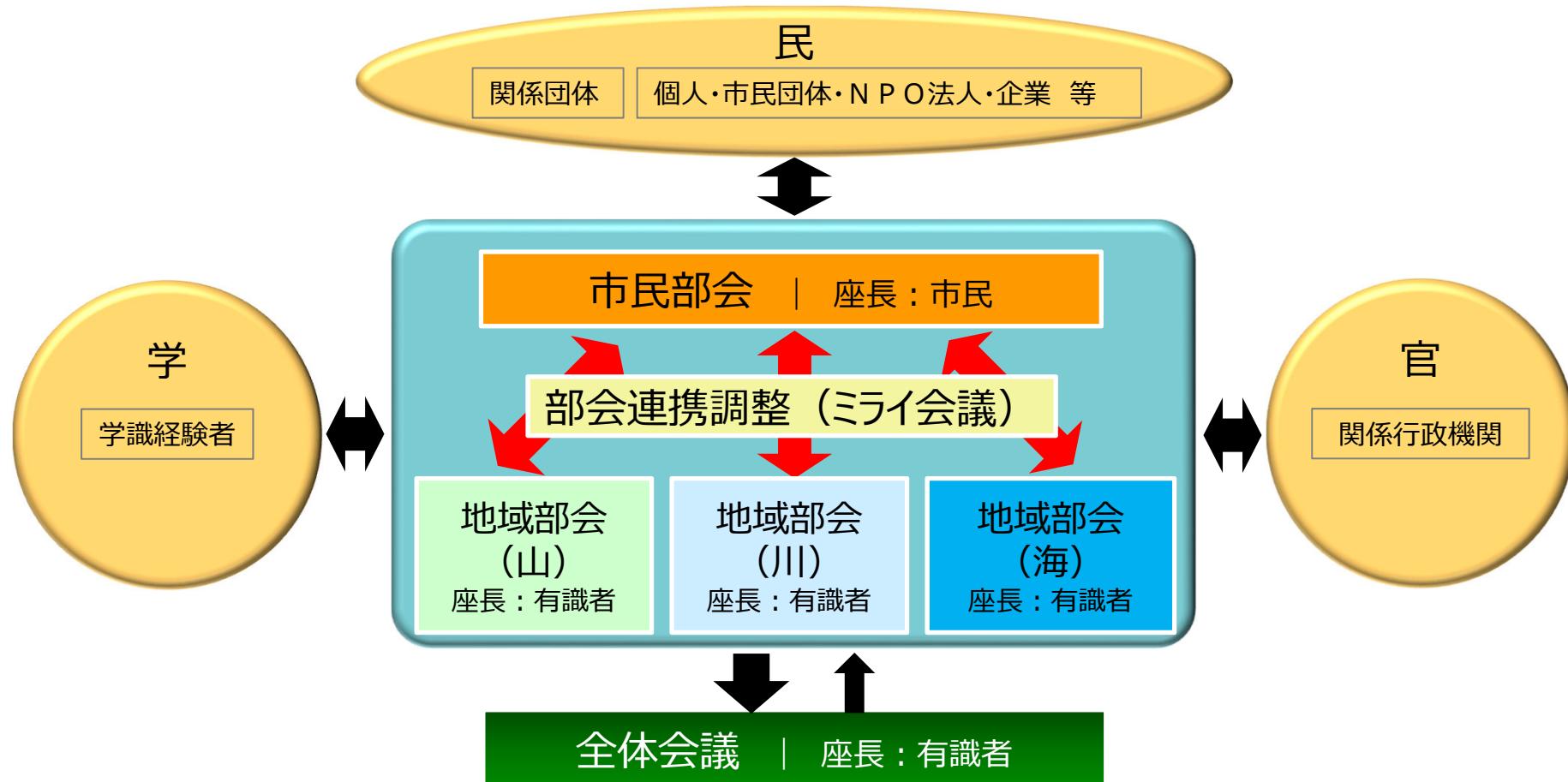
外部団体との連携手法に関する意見交換の様子

（第61回川部会WGにて）

2.令和5年度の体制及び活動目標 今後の体制

■ 体制図

- 市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。
- 地域部会のWG・フィールドワーク等は必要に応じて開催するものとし、市民部会発の勉強会を行う。



2.令和5年度の体制及び活動目標 スケジュール

■ スケジュール案

- 市民部会は、WG、まとめの会を実施するとともに、バヌアーや公開講座の実施を検討する。
- 勉強会と流域連携イベントの実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 地域部会WGは、山、川、海で開催する。フィールドワークは随時実施する。また、総括として全体会議に向けた「まとめの会」を実施する。
- 部会連携調整（通称：ミライ会議）を開催する。今後の流域圏の在り方等を検討、支援する。
- 中間報告会を令和5年11月に予定し、さらに全体会議を令和6年11月に行い、約一年半の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- 流域連携に関するイベントに参加する。以下、想定されるイベント。
①矢作川感謝祭 ②“いい川”・“いい川づくり”WS ③三河湾大感謝祭

体制・イベント		月																							
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11				
市民部会	WG	勉強会																							
		まとめの会																					●		
地域部会	WG	フィールドワーク																							●
		まとめの会																							
全体会議		話し合いの会																★							★
部会連携調整		ミライ会議																							
流域連携に関するイベント											①	②	③										①	②	③

2.令和5年度の体制及び活動目標 川部会の活動目標

令和5年度の活動目標（案）

- 流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。

テーマ別の活動目標（案）

①河道に関する課題（本川・支川）

- 上流から海までを繋ぐ役割として、上下流共通の課題である土砂問題や生き物の棲みやすい川づくりについて、情報共有および意見交換を行う。

②流域に関する課題

- かわまちづくりに関する行政や関係機関から矢作川流域内で取り組んでいるプロジェクトについて、情報共有いただく。
- 流域の課題を防災面・社会面から整理し、行政や市民団体などが参画できる場を創出する。

③交流・共有に関する課題

- 川を通して人と人の繋がりを広げるため、本部会がプラットフォームとして機能することを目指し、外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携を深める。